

地域懇談会について

1. 地域懇談会の目的

海は陸からの栄養の流入と外海との海水交換を通じて生物生産を繰り返し、海としての営みを継続させている。この海の状態を具体的に表現する方法として、水質や生物調査の結果を用いるが、刻々と変化し、様々な環境要因が複雑な相互作用によって表される「海の状態」を単純にみることには若干違和感がある。毎日のように海と接し、海の営みの中で生産される漁獲物を通じて「海の状態」を肌で感じている漁業者の方々の感想は、科学的なデータを超越した、貴重な情報であると確信している。

三河湾の地域検討委員会では、漁獲量や水質等の情報から、1960年代を1つの目標と考えているが、三河湾が豊かだった時代から現在までの海的环境や生物の変化について、日頃海を身近にみている漁業者の実感を聴取して、豊かな姿と現在の姿はどのように異なり、その変化はどの程度なのかを詳細に把握したい。また、今後必要と考えられる対策について議論することによって、効果的な物質循環健全化対策を選定するための重要な参考情報としたい。

2. 懇談会の形式

率直に話ができる雰囲気を作るため、飲み物や軽食を準備した円卓会議形式とする。

<出席者>

議論参加者

- 豊かな海(地域検討会では1960年初めを想定)を知っている漁業士の方々(渥美漁協、三谷漁協、蒲郡漁協、衣崎漁協、吉田漁協、幡豆漁協、大井漁協、大浜漁協から各1名：ノリ、船曳(サヨリ)、アサリ、内湾底曳、刺網(エビ・カニ)などの漁業を営む方々)
- 地域検討会有識者委員(中田喜三郎委員長、和出隆治委員、鈴木輝明委員)
- 事務局(いであ(株))(司会進行)
- 環境省

オブザーバー

地域行政委員、中部地方整備局、中部地方環境事務所

3. 懇談会の事前準備

懇談会の内容に関する各参加漁業者に対する事前聞き取りを実施する(現在各参加者にヒアリング実施中)。また、内容に関わる写真や資料がある場合は、懇談会へのそれらの提供も求めている。

<アンケート内容>

前提

三河湾の顕著な環境変化があったと考えられる3つの年代を概ね比較して・・・

1960年頃（人為的なインパクトが少なかった、環境が豊かだった時代）

・・・代表的な出来事（伊勢湾台風（1959）、ベトナム戦争開始・カラーテレビ放送開始（1960））

1980年頃（沿岸の開発が概ね終わり陸域から過剰な負荷が流入していた最も悪かった時代）

・・・代表的な出来事（阪神タイガース初の日本一（1985））

2010年頃（流入負荷の抑制や干潟・浅場の造成といった対策後の現在）

豊かだった時代からこれまでの変化について

○魚や貝など漁獲物となる生物の出現状況

- かつてはどのような種類の魚介類が多かったか？
- 多かった魚介類はどのように（量、大きさ、味、においなど）変化したか？

○クラゲの出現状況

- クラゲはいつ頃から増えたか？
- どのように変化（量、大きさ、出現場所など）したか？

○漁業の変化

- 各漁業を行う条件（場所、時期、水深、方法など）は変化したか？

○その他

- 赤潮や苦潮の出現状況
- 水のおいしさや透明さ
- アマモの繁茂状況
- 他に変わったと気づく点

三河湾を豊かな海に再生するための課題について

- 上記の変化が起きた原因として考えられることは何か？

事前ヒアリングによる注目すべき意見

- 港内の貧酸素水を始めて感じたのは昭和40～45年頃（1960年代後半）である。漁獲した生きた魚に港内の乳白色に濁った海水を入れたら、魚が死んでしまった記憶がある。
- 豊川では稚貝は多く獲れるが成長しない。沿岸の埋立によって、河川水が沿岸に広がりきらずに沖合に出やすくなっているのではないか。昔はノリが取れなかった沖合の場所でノリが取れている事例がある。
- 平成に入った頃（1990年代）からクラゲが1年中みられるようになったと思う。温暖化や温排水の影響が考えられるのではないか。
- 近年、カワウなどの鳥が増えて、食害がひどくなったように思う。

- 昭和 45 年頃（1960 年代後半）には海の状態が非常に悪かった。除草剤など農薬の流入が原因と考えられる。
- 赤潮は昔（漁業を始めた昭和 45 年頃（1960 年代後半））からあった。
- 昭和 50 年代（1970 年代後半）に養鰻からの排水により栄養が供給され、ノリの色が良くなった記憶がある。

4. 当日の進め方（進行：事務局）

1. 懇談会の趣旨説明（事務局：5 分）
2. 出席者紹介（事務局：5 分）
3. 話題提供：60 分
 - ・案「三河湾の環境の現状と課題について」（中田委員長、鈴木委員、愛知県水産試験場）
 - ・案「瀬戸内海など他の海域における栄養と漁業の問題について」（各地の水産試験場）
4. 事前聞き取り結果紹介（事務局）：10 分
 - 事前アンケート結果の意見をとりまとめて報告
5. 各参加者の意見紹介：30 分
 - 事務局から 4. の意見紹介をもとに紹介して欲しい話を抽出して指名
6. ディスカッション：60 分
 - 事務局より検討委員会が考えている対策案を紹介
 - 豊かな三河湾にするために必要なことはどのようなことなのか？
7. まとめ（中田委員長）：10 分

5. 実施スケジュール

日時：平成 23 年 12 月中旬頃（調整中）

場所：蒲郡付近（調整中）

時間：3 時間程度

以上